

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京薬科大学大学院						
教育プログラム・コース名	緩和ケア医療者養成コース（大学院）						
対象者	薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>①がん薬物療法の支持療法としての緩和ケア（非がん疾患の緩和ケアとの比較も含めて）を理解し、最新のがん薬物療法における知見を踏まえた緩和ケアを実践できる薬剤師</p> <p>②様々な年齢（小児、AYA世代、高齢者など）、場面（在宅、緩和ケア病棟、外来、就労など）における緩和ケアについて理解し、薬物療法における処方提案や職種間連携体制を構築できる薬剤師</p> <p>③職種横断的な部門の構成員として、がん治療を俯瞰しマネジメントを行うことができる薬剤師</p>						
修了要件・履修方法	各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること						
履修科目等	<p><必修科目>がん薬物療法の実習（連携大学医学部付属病院における見学実習）2単位を含む所属分野の必修26単位</p> <p><選択科目>薬学基礎、医薬品情報学、薬物療法学（がんの生物システム学、緩和医療概論、緩和医療実践、がん化学療法を含む）から4単位”</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>学生の指導にあたる教授陣は現在も定期的に関連病院へ定期的に出向し、臨地で薬剤師としてチーム医療に参画している。したがって、本コースを受講する学生は、がん領域における高度な臨床知識を有し、極めて専門性の高い緩和ケア領域での薬物療法に精通した人材として育成される。さらに本プログラムを終了した学生が、緩和ケア領域における適切な薬物療法を普及させるため臨床現場で後進の指導を行うことで、入院から在宅療法に至るシームレスな薬物療法を担える薬剤師を養成できることが期待される。</p>						
指導体制	<p>本学大学院の緩和医療実践分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。東京医科歯科大学医学部附属病院緩和ケア病棟で本学大学院生を対象とした2～4週間の臨床実習を実施する。臨床実習では緩和ケアの実践を学び、薬物療法の現状を踏まえた専門薬剤師としての素養を身に付けさせる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象とした緩和ケアの基礎から臨床までの講義を受講させ、緩和ケアに関する幅広い知識を修得させる。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	・緩和ケアに従事する薬剤師（緩和薬物療法認定薬剤師等）						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8